

### 令和6年産米 情報



#### □千葉県[生育概況]

4月20日に移植した「コシヒカリ」、「粒すけ」は6月20日頃、5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月25日頃に幼穂形成期を迎えています。いずれの品種も幼穂形成期が平年より3日程度早くなっています。

現在の「コシヒカリ」の生育は、草丈が平年並みで、茎数がやや多く、5月1日植えは葉色がやや濃く推移。今後、高温が続くことが予測され、白未熟粒の発生に注意。

#### □向こう3か月の天候の見通し (気象庁7/23発表)

##### 予報のポイント

- 全国的に暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は高い。
- 東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では湿った空気や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう3か月の降水量は平年並が多い。

□近年は水稻生育期間にあたる3~8月の気温が上昇傾向であり、水稻の生育や米の品質にも大きく影響を及ぼしています。米の千粒重の低下やくず米の発生にもなります。

要因のひとつとして、登熟期間中の夜温が高いことがあげられます。稲は光合成によって生産した糖を、籾に送ることで、玄米を大きくしていきます。しかし、稲は呼吸する際に、この糖を消費しており、特に夜温が高いほど籾に送る分の糖を消費してしまうからです。

稲にも、十分な睡眠が必要ですね。

#### ■価格動向

6月の5年産相対取引価格 60kg15,865円(対象全銘柄の加重平均)となり、前月より2%アップ。令和4年産の出回りからの年産平均価格から+2,021円となった。現在の5年産米の市中取引価格に比べれば小幅ではあるものの6年産米に切り替わるまえだけに大きな動きである。

5年産米は、需給の逼迫により3月以降上昇傾向となり、最後にきてさらに価格上昇となった。原因は、いろいろとありますが、これからも需給の逼迫は続くものと考えます。

今後、発表される令和6/7年の主食用米の需給見通しの民間在庫に注視したい。2024/3公表では 176万トン

